



■4号館南西面全景

- 1月 7日 昭和天皇崩御、平成となる。
- 2月 3日 ピュイグ=ロジェ、ピアノ公開レッスン。
- 3月16日 旧師大田司朗教授帰天。
- 4月17日 エルスベート・ブレン声楽公開レッスン。
- 5月 8日 エリザベトコンサートⅠ。
-テノール、オルガン-
- 5月15日 礒山雅講演会。「バッハと聖書」。
- 5月27~28日 第18回大学祭。テーマは「エリザベト発展中」。
佐藤紀雄(ギター)シンポジウムと演奏会。
- 5月30日 藤井一興(ピアノ)レクチャーコンサート。
「メシヤンのピアノ作品をめぐって」。
- 6月12日 エンパイヤ・プラス・クインテット公開講座。
- 7月31~8月3日 第9回夏期大学。
- 8月14~26日 第3回国際音楽セミナー。
(フルート)ピエール=イヴ・アルト
(ピアノ)ブリジッド・ヴァンドーム
- 10月 8日 4号館竣工式。
- 10月 9日 エリザベトコンサートⅡ。-室内楽-
- 11月6~9日 第42回定期演奏会及び特別演奏会(熊本、宮崎)
プーランク:《グローリア》他
指揮:増田順平
- 11月11日 ベルリンの壁崩壊。
- 11月14日 エディット・セリグ声楽公開レッスン。
- 12月11日 クリスマスコンサート。
ストラヴィンスキー:ミサ曲他
指揮:増田順平



■国際セミナー

成長して行くということ 36期 藤田 浩

「ねーねー、あの時のA君、覚えてる?」「そーそー、面白かったよねー。」「あはは、笑いすぎてお腹痛い…。」みんな集まると、決まってこんな会話になる。ぼくたちは、普通に学生生活を送っていたはずなのに、なぜかいつも、妙なトラブルが持ちあがるのだった。とんでもない失敗も笑い飛ばすことが許されていた。ぼくたちも毎日が成長(?)の連続だった。

故テホン先生からベニテズ先生へと学長が交代し、東京で定期演奏会を催し、そして新校舎の増設。そういえば、プレハブの仮住まいで授業を受けたっけ。ただでさえ狭いキャンパスが工事でもっと狭くなった中で、大学祭で盛り上がった。ああ、思い出すなあ…。

音楽や新しい世界で活躍している友たち。大学から離れても、歳はとつても、今なお毎日が成長の日々。それが、母校エリザベトで学んだいちばん大切なことなのかもしれない。

- 1月31日 ベチコフェル教授最終講義。「ニーチェとキリスト教」。
- 3月31日 鎌田武夫理事長退任。
- 4月 1日 大学院開設。(従来の音楽専攻科は3月31日をもって廃止)。
- 4月 1日 小崎次郎教授が第3代理事長に就任。
- 5月 7日 エリザベトコンサートⅠ。
-室内楽-
- 5月21日 青柳いづみピアノレクチャーコンサート。
「ドビュッシーのピアノ曲:解釈と演奏法」。
- 5月26~27日 第19回大学祭。テーマは「飛翔」。
藤家虹ニクラリネットコンサート他
- 6月25日 旧師アルノルド・ラーデマン神父帰天。
- 7月 7日 旧師愛宮真備(ワーゴウ・ラサール)神父帰天。
- 7月21日 ヴェンチェスヴァ・フルーバ=フライベルガー
声楽公開レッスン。
- 8月1~4日 第10回夏期大学。
- 8月16日 旧師村上清人教授帰天。
- 8月17~29日 第4回国際音楽セミナー。
- 10月 1日 (フルート)ピエール=イヴ・アルトー、(ピアノ)ブリジッド・ヴァンドーム
エリザベトコンサートⅡ。-リコーダー、オルガン-
- 10月 8日 金恵子講演会。
「現代の韓国における教会音楽」。
- 10月15日 秋元道雄オルガンレクチャーコンサート。
「アクションの機能と演奏法」。
- 10月15日 後藤田純生講演会。
「子供の音楽力を高める」。
- 11月 2日 鎌田武夫前理事長帰天。
- 11月 5日 国際協力団の企画により来広したインドネシアの大学生22名来校。
- 11月5~8日 第43回定期演奏会及び特別演奏会。(岩国、福山)
グレゴリオ聖歌他
- 12月 1日 大学院入学飛び級制度制定。
- 12月10日 クリスマスコンサート。
オネゲル:《クリスマス・カンタータ》他
指揮:榊原哲

大学院音楽研究科は定員10名とし、宗教音楽学専攻(宗教音楽学、宗教声楽、オルガン)、音楽学専攻(作曲、指揮、音楽学、音楽教育学)、声楽専攻、器楽専攻(鍵盤楽器、弦楽器、管打楽器)の4専攻から成る。



■教職員研修会(みのち学荘、9月20~22日)



■鎌田理事長送別会



■大学祭



■藤家虹ニクラリネットコンサート

白ドレスへの憧れ 37期 那須 千晶

「シロドレス」と私達の間で呼ばれていたそのドレスは、「4年生のお姉様方の特権」の象徴であったかのように思う。かく言う私も、柄にもなく少し憧れていた。'90年度の定期演奏会(福山・岩国公演)で、グレゴリオ聖歌の聖歌隊として舞台に乗る事となった。遠足気分で公演先へ向かい、少々浮き足立っていたのも、「シロドレス」に着替え、身なりを整えると、気が引き締まった。水嶋先生の指揮に導かれ、静寂と緊張した空気の中で歌い終えた時、1つの事を成し遂げたという充実感でいっぱいであった。

専攻がピアノだった私は、「シロドレス」を着る機会は、ほとんどなかった。大学生活4年目に入り、自信と余裕に満ちたお姉様方が着るに相応しい「シロドレス」。果たして、自分は似合っていただろうか。

平成2年の思い出 -大学院修士1期生として- 36期 三戸 恵

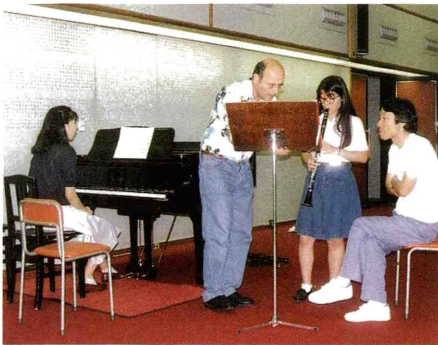
平成2年-この年大学は「大学院設置」と特別な年でしたが、私にとっても本当に有り難く、充実した大切な年でした。エリザベト初めての院生となったのは私を含め12名。少人数の為、院の設備も充分使用でき、恵まれた環境でした。1期生ということで実験的な面もあり不安もありましたが、それは逆に自由で伸び伸びできたように思います。先生方のエネルギーも強く感じられ、専門のレッスンは勿論、院ならではの授業も大変興味深いものでした。その1つ、現代曲を演奏するソニック・ラボラトリーは、院1期生有志で活動する音の実験劇場Class'90へ続いています。また、試験曲1曲の演奏で精一杯だった学部と違い、1つの演奏会として行なう研究発表会での経験は今の土台となっています。

あれから8年!日々の生活に追われがちな今、あの頃の気持ちを忘れず、「あの時は良かったね。」で終わってしまわない様、色々な面で発展させて行ければと思っています。



■ベニテズ学長と久守学生部長

- 4月 「ロヨラ国際交流基金」を創設。
附属音楽園(西条、古江教室)を増設。
- 5月 8日 磯山雅講演会。「バッハがオルガンに託したもの」。
- 5月10日 アンリエット・ビュイグ=ロジェ、ピアノ公開レッスン。
- 5月20日 エリザベトコンサートⅠ。-室内楽他-
- 5月25~26日 第20回音楽祭。テーマは「アンサンブル」。
- 5月28日 元学長、名誉教授ホセ・テホン神父来校。
- 5月29日 柴田南雄講演会。「1950、60年代の日本の作曲界」。
- 7月 8日 浦川宣也管弦打楽器レクチャーコンサート。
- 7月31~8月3日 第11回夏期大学。
- 9月4~16日 第5回国際音楽セミナー(クラリネット)。
ミシェル・アリニョン
- 9月24~29日 ウィンドアンサンブル、フィリピンで演奏。
- 9月30日 エリザベトコンサートⅡ。
-室内楽他-
- 10月17日 嶋津武仁、ロルフ・クライン講演会。
「音楽とテクノロジー」。
- 11月4~5日 第44回定期演奏会。
- 11月6~7日 特別演奏会。(名瀬、沖繩)
ベートーヴェン:《ミサ曲 ハ長調》他
- 11月26日 ローマン・バンヴァルト講演会。
「グレゴリオ聖歌が現代の典礼を活かす役割、重要性、唱法の事実」。
- 11月29日 アンリエット・ビュイグ=ロジェ(ピアノ)、エディット・セリグ(声楽)
レクチャーコンサート。
- 11月30日 アンリエット・ビュイグ=ロジェ、ピアノ公開レッスン。
- 12月 9日 クリスマスコンサート。
プリテン:《ミサ・プレヴィス》他
- 12月20日 田中信昭講演会。
「合唱指導-生徒を歌わせるコツについて-



■国際音楽セミナー

フィリピンからの留学生3名が「ロヨラ国際交流基金」を支給され給費生第1号の金恩淑さんに続き大学院に入学する。
教育理念検討委員会が設置される。

エリザベトで得た財産 38期 松居孝行

今年は、母校エリザベト音楽大学創立50周年という事で、理事長、学長をはじめとする諸先生方の長年の多大なご苦勞によって築き上げられた、何者にも変え難い偉大な功績を、卒業生として心よりお慶び申し上げます。

私のエリザベトでの思い出は、定期演奏会、夏の合宿、クリスマスパーティー……その他、数多くの出来事が限りなく詰まっており、多忙さの中にも、必ず最後には充実感と達成感を味わわせて頂きながら送った大学生活だったように思います。専攻のギターも殆んど毎日セシリアホールのロビーで練習し、恵まれた環境の中から得た物は、技術的にも精神的にも今となっても尚、私にとって、とても貴重な財産となっています。現在は、故郷高知で、高等学校で教鞭をとりながら、ギターの演奏活動を続けていますが、エリザベトで得た財産を次世代へと伝えるべく、与えられた現在の自分の役割を精一杯果たそうと、今後とも頑張っていく所存です。

最後となりますが、母校創立50周年を祝するとともに、今後の発展、飛躍を祈念致しまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

実り 久守 妙子(旧職員)

聖書に「良い木は良い実を結ぶ」というキリストの言葉があります。

原爆投下後、廃墟と化した広島の人々のすさんだ心を気遣い、教会の中から生まれたエリザベト音楽大学は、50年の間に沢山の良い実を結びました。時間は神の恵みです。

エリザベト音楽大学は、惜しみない態度をもって音楽の観点から学生ひとりひとりの人格完成に、注意深く臨む教職員に恵まれています。この恵まれた大学共同体において、人生をかけて積極的な献身ができるような学生が準備され、社会に送りだされています。

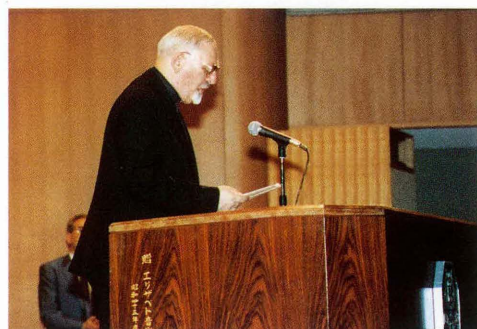
私の勤務した1979年から1991年の時期は、大学院設置の大事業が含まれ、イエズス会らしい卓越性を証した時期でもありました。

大学は、卒業生によって社会に評価されていくことは間違いありません。建学の精神にあるように、今後もひとりひとりの絆が大事にされ、カトリシズムの世界観に基づいた良識ある音楽家が育ち、良い実を豊かに結んでいくことをいつも祈っています。

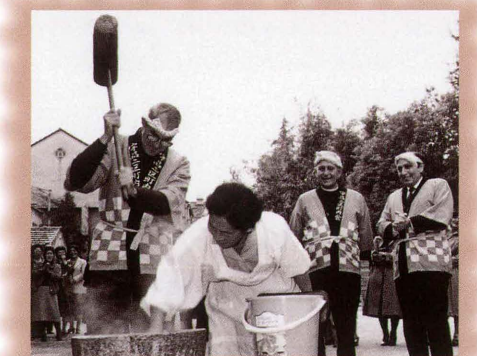
- 4月 学部にて推薦入学再開。
大学基準協会・維持会員(正会員)に加入登録される。
附属音楽園(福岡教室)を増設。
- 5月 9日 広野嗣雄講演会。
「現代におけるオルガン演奏解釈の変遷」。
- 5月11日 エリザベトコンサートⅠ。
-重唱、ピアノ二重奏-
- 5月23~24日 第21回大学祭。テーマは「Love+Peace'92」。
三枝成章講演会他
- 5月30日 高野耀子ピアノ公開レッスン。
- 6月12日 佐々木達夫、ライン・プラス・クインテット公開レッスン。
- 7月 4日 イエズス会総会長コルベンバッハ神父来校。
- 7月22日 久保田敏子講演会。
「箏曲・三味線における古譜の実態と問題点」。
- 7月25~8月6日 第6回国際音楽セミナー(クラリネット)。
ミシェル・アリニョン
- 7月29~8月1日 第12回夏期大学。
- 9月22日 安田実講演会。
「キリスト教宣教師が日本の唱歌成立に果たした役割
の歴史的検証」。
- 9月28日 エリザベトコンサートⅡ。
-ギター二重奏、ピアノ、ソプラノ-
- 10月 9日 ルイス・デ・パブロ講演会。
「ヨーロッパの現代音楽の現在について」。
- 10月14日 久保尾信子講演会。
「身体を使った表現活動」。
- 10月17日 アルダ・ノニ音楽公開レッスン。
- 11月2~3日 第45回定期演奏会。
- 11月4~5日 特別演奏会。(岡山、姫路)
バッハ:《マニフィカト》他
- 12月14日 クリスマスコンサート。
レスピーギ:《リュートのための古風な舞曲とアリア第3組曲》他
指揮:由居学



■大学院一期生追い出し旅行



■イエズス会総会長コルベンバッハ神父来校



■もちつき風景

平成4年の思い出 39期 岡田 陽子

入学して驚いたことは、多くの先生、職員の方々が、気さくに声を掛けて下さることでした。これが縁で、教育の中山先生の研究室に友人と遊びに行き、和太鼓との出会いが、日本伝統音楽研究会を作るきっかけとなりました。タイヤを叩いて練習したり、思いがけず篠笛を習うことになったりと、戸惑うことも多くありましたが、この年、初めて演奏会を行うことができ、卒業後も、和太鼓を専門に進む人もいました。その頃大学は、博士課程設置に向けて、先生方は奔走していらっしゃり、大学全体が、活気に満ちていました。作曲専攻は5人と多い学年で、伴谷先生、近藤先生のレッスンを、自由に聴講でき、様々な雑談から、発想を得ることもありました。この年の学内発表は、3、4年生一緒に、多くの演奏の方々の御協力を得て、自分の作品が音になる喜びを経験させていただきました。エリザベトでの多くの出会いは、今の私を支えてくれる源であり、深く感謝しております。

思い出 三並 惇子(旧師)

非常勤の時期も含めて約40年をエリザベトと共に過ごして参りました。今年6月、77才「喜寿」と呼ばれる年齢に達した現在、私にとってのエリザベトが何であったのかやっと判って来た気がします。

音楽を学び続けて来たことが、残り少ない自分の人生の毎日に、これ程までの喜びや充足を齎してくれるとは、そして、信者でない私にも「神」を考える機会が与えられたということについて、唯感謝の気持ちでいっぱいです。

まだまだ若い卒業生、そして在学中の方々も、50年後の将来、きっと、同じ思いをお抱きになることを確信しています。

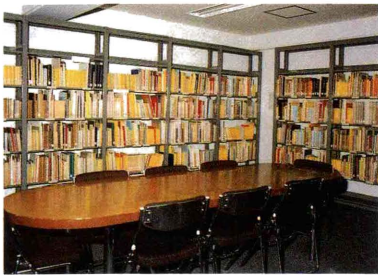
その頃エリザベトは「創立100周年」なのですね。



■大学祭
-富田勲講演会-



■特別夏期大学「音楽療法への組織的入門」
-アンソニー・デクイエル博士-



■大学院図書室

- 4月 1日 博士後期課程開設。
- 4月27日 イエルク・デムス、ピアノレクチャーコンサート。
「シューマンについての話と演奏」。
- 5月10日 エリザベトコンサートⅠ。-ソプラノ、クラリネット-
- 5月22~23日 第22回大学祭。テーマは「『音』それは生きている」。
富田勲講演会他
- 6月 9日 皇太子様、雅子様ご成婚。
- 8月2~7日 特別夏期大学「音楽療法への組織的入門」
アンソニー・デクイエル博士
- 8月14~26日 第7回国際音楽セミナー(フルート)。ピエール=イヴ・アルト-
- 9月22日 大宮真琴講演会。
「ベートーヴェン交響曲第9番のフィナーレの構造
『スタイル・アナリシス』の方法による新しい分析」。
- 9月27日 エリザベトコンサートⅡ。-古楽アンサンブル、ピアノ-
- 10月 1日 西村朗講演会。「アジアの耳と作曲」。
-作曲家としての視点からアジアの伝統が育んだ音宇宙の魅力を語る-
- 10月15日 テオ・プラントミュラー、オルガンレクチャーコンサート。
- 10月29日 リチャード・エマート講演会。
「能とその前衛的古典音楽を巡って」。
- 10月29日 広島空港開港。
- 11月4・7日 第46回定期演奏会。
- 11月5~6日 特別演奏会。(呉、徳山)
グノー:《聖セシリアのための荘厳ミサ》他
- 11月12日 アラルミ三重奏団公開レッスンと演奏。
- 11月13日 カミーユ・モラース声楽公開レッスン。
- 11月24日 ピエール・ティボー、トランペット公開レッスン。
- 12月13日 クリスマスコンサート。
ヴィヴァルディ:《マニフィカト》他

私立音楽大学初の大学院博士後期課程。
4専攻(音楽学、宗教音楽学、声楽、器楽)を統合した音楽専攻で、
音楽学、声楽、器楽の3研究領域からなり、定員は3名。

あきらめない夢について 40期 菅原 旬苑

憧れていた音大への進学を、家庭の事情で断念、高校卒業のまま主婦になりました。しかし、一応落ち着いてみると、昔の夢が再びよみがえりました。家族の協力もあり、音大受験へと準備を始めました。ピアノはその頃縁あって石川正司先生に見て頂くことになり、3年後に受験することになりました。

受験勉強を再開したものの、17年間のブランクを埋めるのは大変でした。英語の単語をたった3つ、前の晩に覚えたつもりでも、朝になると忘れていたという始末です。受験前の半年間は、子供が寝た後午前3時まで毎日勉強しましたので、睡眠はこま切れでした。

晴れて入学できた後も、しばらくはリハビリ中という感じで、ついていけるのかと不安でした。でも、包丁を握る間もノートを離さず、寸暇を見つけてピアノにも向かいました。

学生生活は時間との競争でしたが、それを支えてくれたり、心をなごませてくれたのは級友たちでした。18才も年の違う私に「すんがー」とか「みえねえさん」といって親しくしてくれました。今でも同じようにつきあってもらっています。

私の最も尊敬する師、石川先生によると、私は「大変特異な存在」でした。学生とこんなに年齢の違う学生がピアノ科に入ったのは初めてだったからでしょう。しかし、同門の先輩、後輩のあたたかいまなざしのお陰で、気持ちよく学校生活を過ごせました。そして今、子供たちにピアノを教えさせていただくという私の夢を実現することができたことに感謝しています。

学生時代の楽しかったこと、苦しかったことも、卒業後4年半たった今は、すべてが懐かしい良き思い出となっています。でも、音楽の勉強はこれで終わりということがあります。私も死ぬまで「ピアノ大好き」でいたいと思っています。

大学院博士後期課程第1期生として 36期 地土井 志保

博士課程は、修士課程ができて3年後に開設された。初年度の入学者は5人、うち3人が、修士課程の第1期生である。

博士課程は修士課程以上に、1期生にとっては、実態の把握しにくいものであったのではないだろうか。我々のほとんどは、当初は非常に戸惑い、迂回や軌道修正を余儀なくされた。これは、1期生の宿命ともいえよう。

現在日本では、文系分野においても、論文博士から課程博士取得の方向へ移行しており、本学の方針も、概ねそれに添ったものと思われる。しかし、1998年度現在、1期生5人のうち、満期退学者は既に3人(見込み)を占め、方針が厳密ではなく、融通の効くものであったことが表れている。

博士課程開設から6年、目に見える形で結果が出てはいないものの、徐々に軌道が定まりつつあるようである。羨ましいと思う反面、1期生として混沌とした時期に居合わせたことは、貴重な体験であったとも思うのである。

- 4月 4日 ルチアノ・ベルタニョリオ前教授に名誉教授称号授与。
- 4月 9日 アジア競技大会広島の「芸術展示」プレイベントとして開催された「広島交響楽団と韓国KBS交響楽団ジョイントコンサート」に、本学の女声合唱団が出演。
- 5月16日 エリザベトコンサートⅠ。
-サクソフォン、ピアノ-
- 5月21~22日 第23回大学祭。テーマは「ハートの鼓動」。
- 6月18日 多田逸郎講演会。「通奏低音奏法について」。
- 7月25日~8月6日 第8回国際音楽セミナー(ピアノ)。アンドレ・デ・グロート
- 8月 1日 新校舎増改築工事開始。(2号館と3号館の一部)
- 8月2~5日 特別夏期大学。(音楽療法セミナー)
栗林文雄、横山正勝
- 9月26日 エリザベトコンサートⅡ。
-ソプラノ、室内楽-
- 9月28日 水嶋良雄教授、学長代理就任。
(ベニテズ学長病気療養のため)1995年3月まで
- 9月29日 ホセ・テホン元学長帰天。
- 10月29日 レモ・レモリ公開講座。
「ショパンの練習曲の奏法と演奏」。
- 11月5~6日 第47回定期演奏会。
- 11月7~8日 特別演奏会。(大分、福岡)
グレゴリオ聖歌他
- 11月25日 J.M.ロンデックス、サクソフォン公開講座。
- 12月2~3日 レベッカ・スチュワート講演会。
「ポリフォニー音楽と演奏法」。
- 12月12日 クリスマスコンサート。
ブクステフーデ:カンタータ他
- 12月21日 新校舎起工式。



■ルチアノ・ベルタニョリオ名誉教授



■広島交響楽団・韓国KBS交響楽団ジョイントコンサート



■国際音楽セミナー



■帰国中のベニテズ学長を追いかけて

1994年の思い出 43期 三崎 富弥香

この年の秋、広島ではアジア競技大会があった。県内の学生はいろいろな形で協力し、それはよくテレビでも放送された。私は4月9日芸術展示のプレイベントの演奏会で、ホルスト作曲、組曲《惑星》の第7曲《海王星》で、4年生を中心とした女声コーラスに出演した。始めは同学年のピアノの友人が出るという単純な理由で嬉しかったが、共演した広響、KBS響(大韓民国)の人と交流し、後に英語で文通もしたりと、貴重な経験ができた。

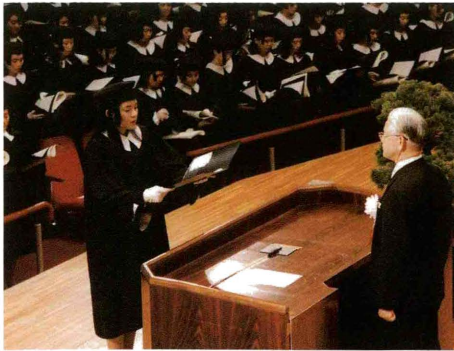
後期は、教育実習の後、大会期間中秋休みで殆ど大学には行かなかった。10月中旬、久しぶりに大学に行くと、校舎の一部は取り壊され、随分雰囲気が変わっていた。友人とよく、「卒業後に完成するんだね。」とため息が混ざり、反面、どんな校舎ができるのか大変興味があった。同様に私達はいつも卒業後の新しい生活の夢と不安について話し合った。新校舎が完成したらみんなで会えて見に来れたらいいね。と言いつつ合点。

ベニテズ先生の思い出 43期 堀内 千香(高橋)

学生時代には非常に厳しいという印象が強かったが、卒業して数年経った今ではベニテズ先生と言えば太陽の様な、あのにこやかな笑顔が思い浮かんでくる。

私が4年生であった夏のこと、先生が体調を崩され、ご静養の為故郷バルセロナへ戻られると言う事があった。淋しさや悲しさ、その他諸々の感情が入り乱れお見送りに行ったプラットホームで恥ずかしながら号泣してしまった事を記憶している。私にとって大変ショッキングな出来事であった。先生が日本に帰って来られるまでおとなしく待って居られず、同期の5人で卒業旅行という名目で先生の許へと押し掛けた。共に過ごした数日間であまりばかりではあるが異国の風土・文化を感じ取ることができたと同時に、学内では拝見できなかったチャーミングな先生の一面を知ることができた。それ以来、先生と私達5人は、MUNANCIA会(MUNANCIAとはバルセロナで宿泊したホテル名)を結成し、年に数回集まっているが、益々、先生の心の大きさ、暖かさ、そして偉大さを痛感している。

ホアキン・ベニテズ先生との出会いは、私にとって一生の財産である。



■卒業式(水嶋学長代理)



■入学記念ミサ(4月3日)



■後藤玲子、由居学、両名誉教授



■植樹祭 (中国新聞社提供)



■植樹祭(合唱) (中国新聞社提供)

- 1月17日 阪神淡路大震災。
- 4月 3日 後藤玲子前教授、由居学前教授に名誉教授称号授与。
- 4月 3日 旧師伊東隆夫教授帰天。
- 5月 1日 G.ウリオル、オルガンレクチャーコンサート。
「スペインオルガン音楽」。
- 5月12日 細川俊夫講演会。「私と音楽」。
- 5月15日 エリザベトコンサートⅠ。-室内楽-
- 5月21日 第46回全国植樹祭。
- 5月27~28日 第24回大学祭。テーマは「新世界への芽生え」。
松田昌エレクトーンライブ
- 6月 3日 アグネス・ギーベル声楽公開講座。
- 6月24日 レース・フラシヨ、チェロ公開講座。
- 8月29日~9月6日 第9回国際音楽セミナー(ピアノ)。アンドレ・デ・グロート
- 10月 2日 エリザベトコンサートⅡ。
-オーボエ、ソプラノ-
- 11月4~5日 第48回定期演奏会。
- 11月6~7日 特別演奏会。(出演、益田)
コダーイ:《ブダヴァリ・テ・デウム》他
- 11月20日 杉山好公開講座。「翻訳を通して識るJ.S.バッハの
宗教音楽作品における精神について」。
- 11月28日 イェルク・デームス公開講座。
- 12月 2日 小林義武公開講座。
「楽譜ができるまで~新バッハ全集の場合」。
- 12月11日 クリスマスコンサート。
シューベルト:《マニフィカト》他

平成7年の思い出 42期 北村 多恵子

この年は、1月17日の阪神大震災、地下鉄サリン事件等、社会的には不安な事が多く私自身宝塚の実家が被災した為、無事に卒業できるのだろうかと追い詰められた気持ちのまま最終学年が始まった事を覚えています。丁度春休み中に、一部の先生方の研究室が近くの「山県ビル」へ移り、新校舎完成へ向けて一気に動き出した感がありました。工事で狭くなった中庭の通路が、合唱や教職の授業の前後は混雑していた事、1日の間に、校舎と山県ビルとの間をブツブツ文句を言いながらも行ったり来たりした事等、今となっては全て懐かしい思い出です。前3年間に比べて何となく落ち着かない年でしたが、来たるべき飛躍の時へ向けての準備期間とも言うべき貴重な1年であったと思います。そして、実利的な事に偏りがちな今の時代に音楽を学べた幸せを、卒業した今、一層感じています。

1995年の思い出 42期 白貝 朋子

卒業して約3年が経つ今、エリザベトが与えてくれたものの大きさを改めて実感しています。宗教音楽を学ぶ私にとって特に印象深いのは、グレゴリオ聖歌による12月24日のクリスマス典礼であり、毎年、教会に響く静かな歌声と荘厳な雰囲気が、皆の心を高い世界へ導いてくれたように思います。

数日前から聖歌の練習が行われ、寒い中、ホールのステージに椅子を並べ、譜面を見つめ、声を合わせていたことが思い出されます。新校舎工事中で狭く区切られた細い道を、重なるように走りながら練習へ向かい、缶ジュースを買って休憩したり、そして春にはこの教会よりも高い校舎が建つんだ、と眺めていたものです。卒業を目前にしたこの年も、いつかまたここでクリスマスを迎える日がくるのかなあ、と今までを振り返り、深い思いでミサに授かっていたことを覚えています。

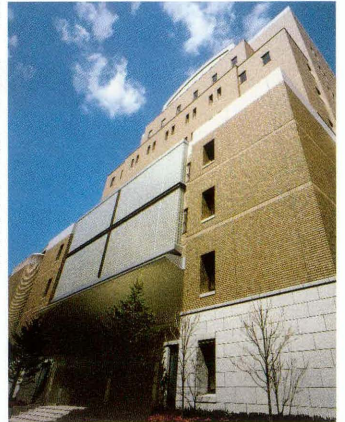
世の中がどんなに変わっても、多くの人々の祈りと共に、あの歌声が響き続けることを心から願っています。

- 2月24日 小池二葉教授最終講義。「井上二葉ピアノ独奏会」。
- 4月 2日 小池二葉前教授に名誉教授称号授与。
キャンパス・ミニストリー室開設。
- 4月25日 井上一清教授、学長代理就任。
(ベニテズ学長病氣療養のため)
- 4月30日 新2号館(創立50周年記念事業)落成披露式。
(スペイン大使・パチカン大使臨席)
- 5月 1日 新校舎落成記念コンサート。
(ザビエルホール披露コンサート)
Part1〈木管・金管アンサンブルの夕べ〉
Part2〈古楽アンサンブルの夕べ〉
Part3〈弦楽アンサンブルの夕べ〉
- 5月18～19日 第25回大学祭。テーマは「上昇気流にのって」。
パネルディスカッション
(リチャード・コーガン、ポッツィ・エスコット)他
- 6月15日 第1回フランソワ・エスピナス、大学院公開講座。
「オルガンにおけるメシアン音楽語法」。
- 6月26日 伊東直美公開講座。「ハンガリーの音楽教育について」。
- 6月29日 マルチェッラ・レアール声楽公開講座。
- 7月24日 第4代学長に井上一清教授就任。
- 8月28～9月5日 第10回国際音楽セミナー(クラリネット)。
ミシェル・アリニオン
- 9月30日 エリザベトコンサート。サクソフォン、ヴァイオリン
- 10月 4日 2号館が「ひろしま街づくりデザイン賞」受賞。
- 10月12～27日 ひろしま国体・おりづる大会の開・閉幕式に
合唱団の一員として学生106名が参加。
- 10月22日 赤井勲公開講座。「オルガンの文化史」。
- 10月30～31日 第49回定期演奏会。
- 11月1～2日 特別演奏会。(佐賀、八幡)モーツァルト:《戴冠式ミサ曲》他
- 11月18日 河野和雄公開講座。「宗教声楽作品ピッチあれこれ」。
- 11月21日 大韓民国ソウル「韓国カトリック大学」と友好提携を結ぶ。
- 12月 9日 クリスマスコンサート。オネゲル:《クリスマス・カンタータ》他
- 12月20日 原爆ドーム、巖島神社が世界遺産登録。
- 12月23日 大韓民国大邱市「暁星カトリック大学」と友好提携を結ぶ。
- 12月24日 台湾(中華民国)台北市「輔仁カトリック大学」と友好提携を結ぶ。



■小池二葉教授最終講義

■新2号館(創立50周年記念事業)



■ひろしま国体の制服



■教職員による聖誕劇(クリスマスパーティ)

平成8年の思い出 43期 臺木 雅貴

エリザベトでの4年間はとても充実した時間でした。特に4年次が思い出に残っています。大きな行事として大学祭、定期演奏会、クリスマスコンサート等ありましたが、やはり「ひろしま国体」です。1年前の植樹祭も大変でしたが、それ以上にひろしま国体は大変でした。今もよく覚えています。練習も大変でした。あとあの衣装も独特で忘れることができません。

次に新校舎ができたことです。1年しか使うことができませんでしたが、ザビエルホール、アンサンブル室などいい設備のなかで勉強する事ができました。同時に学長も井上一清学長にかわり、一番忘れることのできない1年でした。

今思うとき恩師、よき友に、またよき環境に恵まれ、音楽を勉強する事ができました。これからもよき伝統を守り続けてください。



■創立50年記念ミサ



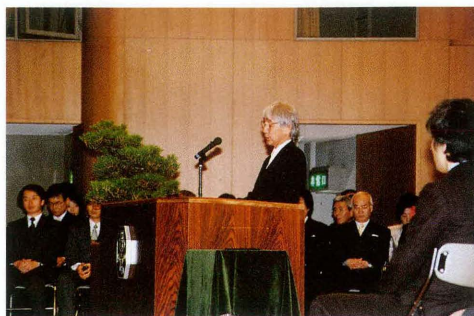
■同上の聖歌隊

- 2月 5日 フィリピン・マニラ市「サント・トマス大学」と友好提携を結ぶ。
- 3月 自己評価委員会『エリザベト音楽大学、現状と課題』を刊行。
- 3月3～6日 マニラと台北にて国際親善演奏会。-室内楽-
(サント・トマス大学、聖スコラスティカ大学、輔仁大学、聖家族教会)
- 4月22日 マッシモ・ノゼッティ、パイプオルガン、レクチャーコンサート。
「19世紀・20世紀のイタリアオルガン音楽について」。
- 5月6～14日 国際グレゴリアン音楽祭参加。(宗教音楽学科合唱団)
- 5月 9日 浜中康子ピアノ公開講座。
「バロック舞曲の性格～バロック・ダンスからのアプローチ～」
- 6月30日 第50回定期演奏会「春季公演」。C.フランク:交響曲ニ短調他
- 6月30日 提携大学大韓民国大邱市暁星カトリック大学の金総長と朴学部長
来校。
- 8月26日 ピアノ教育連盟夏期フォーラム本学にて開催。
タマラ・コーラス、レクチャー
「ロシアにおける導入期のピアノ教育について」他
- 9月23日 日本グレゴリオ聖歌学会第10回全国大会本学にて開催。
- 9月27日 ジュゼッペ・ボッタ声楽公開レッスン。「バルカント技法による発声と唱法」。
- 9月29日 エリザベトコンサート。-フルート-
- 10月11日 渡部恵一郎講演会。「ヘンデルのオラトリオ《メサイア》」。
- 10月14日 花井哲郎講演会。
「フランドル楽派の宗教演奏に関する諸問題-理論と実践-」。
- 10月22日 伊藤多喜雄講演会。「おやじのソーラン節がきこえる」。
- 10月24日 エリザベト音楽大学附属音楽園『創立50周年記念演奏会』。
(井上二葉ピアノリサイタル)
- 11月 4日 第51回定期演奏会。ヘンデル:《メサイア》
- 11月14日 ヴィレム・ブロンズ、大学院ピアノレクチャーコンサート。
「F.シューベルトの遺作のピアノ・ソナタについて」。
- 11月22日 創立50年記念ミサ。創立50年記念の新作ミサ曲披露。
- 11月22～23日 第26回大学祭。テーマ「安芸の空に平和の響き」。
- 11月27日 マンフレット・シュターンケ公開講座。
「新しいメトリック、メロディー及びハーモニーについて」。
- 12月 8日 創立50周年記念クリスマスコンサート。プーランク:《グローリア》他

1997年の思い出 44期 藤岡 奈美子

1997年はエリザベトにとって50年という記念すべき年でした。毎年恒例の行事に少し変化がありました。まず、定期演奏会が夏と秋の2回公演になったこと。夏の公演は6月の下旬に開かれました。オーケストラは春休みから強化練習に励みました。50年を記念して演奏した曲はフランクの交響曲でした。秋の定期演奏会では、ヘンデルの《メサイア》を演奏しました。全員の呼吸が一つになる興奮と張り詰めた緊張感は、昨日のことにように思い出されます。そして11月の創立記念日には50年記念ミサが開かれました。記念ミサのために新しいミサ曲が作られ、この日に向けて聖歌隊は練習を重ねました。この年は大学祭が11月に行われました。肌寒い季節の大学祭ということで、今までとは違う雰囲気だったように思います。エリザベトの長い歴史の節目となる50周年記念行事に参加できたことを嬉しく、そして誇りに思います。

- 2月21日 杉田谷道教授最終講義。「杉田谷道ピアノリサイタル」。
- 3月6～16日 第11回国際セミナー。
(ピアノ)ジャック・ルヴィエ、(フルート)ロスヴィタ・シュテューゲ
- 4月 2日 フランス・ポーン前教授、杉田谷道前教授に
名誉教授称号授与。
- 4月22日 ヴォルフガング・ザイフェン、パイプオルガン、レクチャーコンサート。
「カトリックの典礼における即興演奏」。
- 4月25日 福島和夫講演会。「12・13世紀の宮廷における音楽をめぐって」。
- 4月29日 日本オルガニスト協会主催第25回オルガン新人演奏会本学にて開催。
- 5月13日 川島成道音楽教育レクチャーコンサート。「音楽で語るために」。
- 6月29日 創立50周年記念52回定期演奏会。
サン＝サーンス:交響曲第3番他
- 8月 1日 創立50周年記念番組放映(NHK総合テレビ中国管内)。
「焦土にモーツァルトが響いた日
～広島・ゴージェンス神父の音楽教室～」
- 8月3～12日 国際交流セミナー。
(大韓民国大邱市暁星カトリック音楽大学音楽学部より
学生12名、教員3名が来校し本学学生・教員と交流。)
- 9月19・20日 日本音楽教育学会第29回全国大会本学にて開催。
- 9月28日 創立50周年記念エリザベトコンサート。-室内楽-
- 10月 エリザベト音楽大学付属音楽園合唱団
「プエリ・カンタンテス」活動開始。
- 10月 3日 ウタ・シュプレッケルゼン声楽公開レッスン。
- 10月 7日 大学院博士後期課程からの初の修了者に、本学の音楽博士の学位第1号を授与。
- 10月12日 宇田川貞夫宗教声楽公開講座。
- 10月12日 宮本文昭オーボエ公開レッスン。
- 10月24・25日 第27回大学祭。テーマ「輝け、われら50年の軌跡」。
東儀秀樹トーク&リサイタル
- 10月28日 高橋悠治ピアノ公開講座。「反解釈と練習-バッハ、ショパン、
現代ピアノの音楽をめぐって-」
- 11月10日 創立50周年記念第53回定期演奏会。
(広島厚生年金会館ホール)
- 11月11・12日 創立50周年記念特別演奏会。
(東京:オーチャード・ホール、大阪:ザ・シンフォニー・ホール)
ドヴォルザーク:《スターバト・マーテル》
- 11月14日 ウーヴェ・ハイルマン、大学院声楽公開講座。
「ドイツリート解釈とその演奏法について」。
- 11月21日 創立50周年記念式典、祝賀会。
(セシリアホール、2号館ロビー)
- 11月22日 同窓会主催創立50周年記念祝賀会。
(リーガロイヤルホテル)



■入学式



■国際交流セミナー



■大学祭